

小学校児童指導要録

様式2(指導に関する記録①)の記入例と注意事項

各教科等の観点が入りに整理され、様式も評定を各教科の最下段に記入するようになったり、特別の教科 道徳の欄や外国語活動の欄が追加されたりと変わっています。

低学年では、各教科の評定、外国語活動、総合的な学習の時間は記入しませんが、参考のために記入のしかたも載せています。

記入上の全般的な注意事項

- 「指導に関する記録」は卒業後、5年間の保存となる。
- この様式には「各教科の学習の記録」「特別の教科 道徳」「外国語活動の記録」「総合的な学習の時間の記録」「特別活動の記録」が設けられているが、児童の各教科等の学習状況を総合的に把握するためのものであることから、それぞれの欄の特質を十分に考慮して記入する。
- 誤記の場合は、修正液等を使用せず、文字の上に2本線を引いて消し、訂正箇所には訂正者の認印を押す(原則として学級担任の印)。
- 総合的な学習の時間及び特別活動の「観点」は、変更のある場合が考えられるので、記入箇所については、上部に書き、下部は空けておく。

記入の時期

- ・入学時……○印
- ・学年当初……●印
- ・学年末……△印

- 様式1の児童氏名、学校名と同様に記入する。ゴム印も可能。
- 様式1の学級、整理番号と同様に記入する。

※観点別学習状況

- △小学校学習指導要領に示されている各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、A、B、Cの記号により、次の評価基準で記入する。
A「十分満足できると判断されるもの」
B「おおむね満足できると判断されるもの」
C「努力を要すると判断されるもの」
- △児童の各教科の学習状況を総合的に把握して記入する。学年末に記入するが、転学、退学の場合は、その都度必要な事項を記入する。

※評定の記入

- △この欄には、第3学年以上の各教科の学習状況について、小学校学習指導要領に示されている各教科の目標に照らして、その実現状況を総合的に評価し、3、2、1の数字により、次の評価基準で記入する。
3「十分満足できると判断されるもの」
2「おおむね満足できると判断されるもの」
1「努力を要すると判断されるもの」
- △各教科の評定を行う際には、評価の3観点を踏まえ、児童の日頃の学習状況を考慮し、年間を通じた学習の成果を総合的に判断して決定すること。
- △観点別学習状況の評価をどのように評定に総括するかといった具体的な方法等については、各学校で工夫することになっている。その際、総括に当たっては、各教科で説明がつくようにすることが大切である。
- △評定に当たっては、目標に準拠した絶対評価であることを踏まえ、段階ごとにあらかじめ一定の比率を定めて、機械的に割り振ることのないよう配慮する必要がある。

様式2(指導に関する記録)

児童氏名	学校名	区分	学年	1	2	3	4	5	6
松山太郎	埼玉県〇〇市立〇〇小学校	学級	2						
		整理番号	20						

各教科の学習の記録		特別の教科 道徳	
教科	観点	学年	学年
国語	知識・技能	B	1 思ったことを実際に行動に移すことの難しさを自分の体験と重ねて考え、素直な言葉で発表することを通して、それを克服しようとする意欲が湧いた。
	思考・判断・表現	A	
	主体的に学習に取り組む態度	B	
社会	知識・技能		2
	思考・判断・表現		
	主体的に学習に取り組む態度		
算数	知識・技能	B	3
	思考・判断・表現	A	
	主体的に学習に取り組む態度	B	
理科	知識・技能		4
	思考・判断・表現		
	主体的に学習に取り組む態度		
生活	知識・技能	B	5
	思考・判断・表現	B	
	主体的に学習に取り組む態度	A	
音楽	知識・技能	A	6
	思考・判断・表現	A	
	主体的に学習に取り組む態度	A	
図画工作	知識・技能	B	3
	思考・判断・表現	B	
	主体的に学習に取り組む態度	A	
家庭	知識・技能		4
	思考・判断・表現		
	主体的に学習に取り組む態度		
体育	知識・技能	A	5
	思考・判断・表現	A	
	主体的に学習に取り組む態度	B	
外国語	知識・技能		6
	思考・判断・表現		
	主体的に学習に取り組む態度		

外国語活動の記録			
学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3			
4			

総合的な学習の時間の記録			
学年	学習活動	観点	評価
3			
4			

特別活動の記録						
内容	観点	学年	1	2	3	4
			学級活動	○		
児童会活動						
クラブ活動						
学校行事						△

- △特別の教科 道徳の評価は、学習活動における児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を「個人内評価」として文章で端的に記入する。

- △3年生、4年生で評価する外国語活動の記録は、評価の観点に照らして児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記入する。

- 総合的な学習の時間は、学校により観点を変更することも可能であることから、指導と評価について校内で十分に検討し、確認しておくことが大切である。

- △3年生以上の学年で評価する総合的な学習の時間の記録は、この時間に行った「学習活動」及び各学校が定めた評価の「観点」を記入した上で、それらの観点のうち、児童の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を文章で端的に記入する。

- 特別活動の記録については、各学校が定めた評価の観点を記入する。
- △各活動・学校行事ごとに評価の観点に照らして、「十分満足できる状況」にあると判断される場合には、欄内に○印を記入する。

- △クラブ活動は、実施しなかった学年の欄には斜線を引く。本事例では、4年生からクラブ活動が始まる学校のものを取り上げている。